

学位論文の要旨

フリガナ 氏 名	ミヤガワ オウキ 宮川 央輝
専 攻 入学年度	宮崎大学大学院農学工学総合研究科博士後期課程 資源環境科学専攻 (西暦) 2022 年度 (4 月) 入学
学位論文 題 目	ガーデンツーリズム登録制度の導入効果と事業運営に与える影響に関する研究

【論文の要旨】 (和文の場合 1,200 字程度、英文の場合 800 語程度)

庭園間交流連携促進計画登録制度 (通称: ガーデンツーリズム登録制度) は、公民の複数の庭園等が連携することにより、地域活性化につなげる全く新しい取組として創設された。しかし、これまで登録制度に対する事業実態の把握が行われておらず、今後、登録制度による事業展開を効果的に進めるためには、活動実績に対する定量的な評価や制度導入に対する多様な検証が必要である。

本研究は、全国 8 つの協議会の事業管理者と地域の構成庭園管理者に対するアンケート調査・分析及び活動実績報告書の文献調査に基づいて、登録制度の導入効果と事業運営に対する影響を明らかにするものである。

第 1 章では、制度検討時及び創設当初の議論動向を整理するとともに、海外ガーデンツーリズム等の既往研究を整理し、制度特性を把握した。その上で第 2 章では、活動実績に対する多変量解析によって、全国のガーデンツーリズム事業が 3 つに類型されることを明らかにした。また、アンケート調査によって、協議会の事業管理者からみた導入効果と影響を把握するとともに、D. I. 指標の分析によって、公民連携の割合及び連携規模に応じた導入効果を定量的に示した。

第 3 章では、地域運用における登録制度の影響を把握するため、まずガーデンツーリズム宮崎花旅 365 の概要と宮崎の緑化施策の経緯を整理した。次に構成庭園管理者に対するアンケート調査によって、地方での制度運用の実態を把握するとともに、事業運営に対する公民の設置者・所有者に意識差があることをレーダーチャートで示した。またアンケート調査結果を踏まえて関係自治体と事務局に対するヒアリング調査を行い、地域での事業運営に対する関係者間の影響や意識差及び制度導入における地域課題を明らかにした。

第 4 章では、アンケート調査とテキスト分析によって、事業に対する事業管理者の重要事項の順位を経過年ごとに算出し、COVID-19 流行下に対する登録制度での事業運営に対する意識変化を明らかにすることで、平時からリスク対策を検討して対話と交流を進めていく重要性を示した。

最後に、第 5 章では、これまでの各章の考察を総括し、登録制度がもたらした導入効果と事業運営に与える影響に対して、「事業活動の評価基準」、「制度の有効性と課題」、「公民連携と庭園間連携の影響」、「公民の設置者・所有者に対する運営の影響と課題」、「公民連携の地域運営体制に対する影響と課題」、「関係自治体に対する影響と課題」、「社会的リスクに対する事業管理者意識と課題」、「庭園間の連携強化及びインバウンドへの対応強化に対する事業管理者の意識変化」を結論として示した。

以上、本研究の成果は、制度特性に対する導入評価と事業運営に与える影響に対する課題と意識

変化を明らかにしており、今後のガーデンツーリズム登録制度の発展と導入に寄与できる新たな評価基準と事業運営に対する影響と課題の一端を示した。

- (注1) 論文博士の場合は、「専攻、入学年度」の欄には審査を受ける専攻のみを記入し、入学年度の記入は不要とする。
- (注2) フォントは和文の場合 10.5 ポイントの明朝系、英文の場合 12 ポイントの times 系とする。
- (注3) 学位論文題目が外国語の場合は日本語を併記すること。
- (注4) 和文又は英文とする。